

「長時間 ERCP に対する通常鎮痛鎮静に低用量ポーラスデクスメドミジンを追加することの有用性を検証する為の後向き研究」について

1. 研究の対象

予定された内視鏡検査として、2021年4月～2023年12月に、長時間を要する ERCP（小腸内視鏡下 ERCP、胆道鏡併用 ERCP、3本以上の胆管ステント留置術、径乳頭的胆嚢ドレナージ術）を施行した患者さん

2. 研究目的・方法

中枢性 $\alpha 2$ 受容体作動薬であるデクスメドミジン(Dexmedetomidine: 以下 DEX)は、呼吸抑制が少なく、鎮痛と鎮静効果を併せ持つ薬剤であり、集中治療や内視鏡の場面でその有用性は広く報告されています。通常の内視鏡検査では通常の内視鏡麻酔で十分ですが、逆行的胆管・膵管造影検査(ERCP)では長時間の処置を要する 경우가多々あり、麻酔が不十分になる可能性があります。そのような場合では、当院では DEX を使用していますが、循環動態への影響があることが知られているため、その影響を最小限とするために初回投与量を通常の半量へ減量するという方法(低用量 DEX 投与レジメン)を用いています。ただし、長時間を要する ERCP に対する有用性は現在のところ十分わかっていないため、過去に当院で低用量 DEX 投与レジメンを使用し、長時間を要する ERCP を施行した症例を解析し、その有用性の検討を行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・患者背景:性別、年齢、身長、体重、病名、合併症、麻酔スコア、胆管炎/膵炎の有無
- ・血液学的検査:クレアチニン、 γ -ビリルビン
- ・内視鏡術中所見:内視鏡時間、使用薬剤料、収縮期血圧、脈拍、酸素飽和度(SpO₂)、ラムゼイスコア

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

磐田市立総合病院 消化器内科 静岡県磐田市大久保 512-3 電話:0538-38-5000

研究責任者:磐田市立総合病院 消化器内科 金子淳一